

着物を着たら力士になった

佐藤 陽子

日本人だから着物が似合うに違いない。何の疑問も持たず私はそう思っていた。なんてったって民族衣装だ。

だから、そろそろ着物生活を始めよう!と思った。

「着物で日常を過ごす」素敵だ。「着物で過ごす日常」小粋だ。

なで肩体型を生かして、おしゃれに磨きをかけようと素直に熱く納めた。

着物に必要な物は一からそろえた。母の残した和服を桐(きり)たんすごと処分してしまったからだ。着物に興味を持つ日が来るなど想像すらしなかった。

次は着付け教室だ。販売目的の教室は困る。目指しているのは、あくまでも普段着の着物生活だ。値の張るものは必要ない。

少し遠いがマンツーマンで、すぐに着物が着られるように実効性・即効性、自分で着るコースがある着付け教室にした。

先生は60歳代のショートカットが良く似合う、ほっそりとした和服美人だ。とうとう着物生活の第一歩が始まる。

着付けはまず体の補正から入る。体にデコとボコがあつてはいけない。体を筒状に仕上げるのだ。バストの出っ張りが邪魔だ。帯の上に胸が乗るのはみつともないそうだ。

だからバストを力づくで平たく作る。さらしを巻くのが一般的だ。バストの谷間にもタオルを入れて谷間を埋める。

ウエストラインもいらない。フェイスタオルやバスタオルを巻く。腰のぜい肉は腰巻で締めるが、なかなか処理しきれない。体の補正だ

けで30分が経過した。

鏡の中で、こけしになった私が固まっている。勝負はこれからだ。気を取り直そう。

長じゅばんを体に巻きつけ伊達(だて)締めでぐるぐる巻く。次にやっと着物だ。これもヒモと伊達締めをぐるぐる。

そして帯だ。三重にぐるぐる。帯締めや帯揚げもぐるぐる。ぐるぐるの反復作用で体は恐ろしく膨張した。

1時間半後、鏡の中のこけしは「ごっさんです」と言いたげな力士に変身していた。

着付けの先生はスタイル維持のため朝食しか取らないそうだ。オシヤレはガマンとよく言うけれど。

今日も着物屋さんから「少しは痩せましたか？」とメールが入った。

(さとう・ようこ||岡山県エッセイストクラブ会員、岡山市在住)

毎日新聞 2017年2月25日掲載